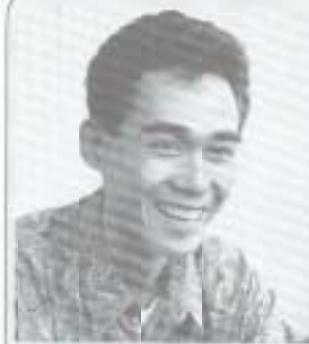




書道の部

とけも ときつせ  
武市敏嗣さん・駅前町



武市さんの書道歴は長く、王議ぐらいのときに書道塾に通い始めたのが最初。当時は親に言われて通っていたため、本人はあまり乗り気ではなかつたようです。

高校に入つて回りの人たちが

洋画の部

佐竹 茂きえ・大堀



小さいころから絵を描くことが好きだった佐竹さん、大学時代に先輩から教わったのが油絵との出会い。

初めは小さなものばかり描いていたのですが、二十四歳のとき美展に出品するために大きなキャンバスに向かいました。以来現在まで県展や市展に出品しています。

「自分は主に風景、それも人工的なものを描いています。自然が好きで山登りなどもしていますが、花鳥風月は描けません。山できれいだと感じる風景を描こうとしても、描ききれるもの

「まあ、描きたいことを自己流で描いています。自分の絵を見て共感してくれた人が少しでもいたらうれしいです」

「絵を描くということはどこかで心のなぐさめになつてゐるし活力源でもあります。絵を描いてゐるときが一番充実しています」と語ってくれました。

自然が好きで過度な開発をするくらいなら、少しくらい不便でも、自然を残す方がいいと考える佐竹さん。その絵を見ると自然破壊に対する反発が根底に流れているのが感じられるような気がします。



次々に筆を振らなくなまる中で、書道に対する欲が出てきた武市さん、このころ字を書くことの面白さに気付きました。

「自分は思いつきで書きます。あまり悪い詰めて書いてもつらいだけですから。楽しむのが一番です。」

書道というのは造形です。白と黒のバランスでいかに文字の持つ呼吸感を出すかが大事なんですよ。字を書くというよりは絵画を描く感覺に近いですね。まとまりすぎても面白くないし、自由に書いた方が書く方も見の方も楽しいと思いますよ。」

書くときは音楽など  
ながら書きます。人に  
静かにしないと書けな  
るんじやないですか。  
フクスして書くにはい  
いですか」とあくまで  
気楽に書道をするとい  
う自分のスタイルを守  
っています。



写真の部

新刊案内



「市展に出品したのは昨年から初めて、友人の勧めで思い切って出品したら、なんと特選でしよう！まぐれ、まぐれっ！だって自分が一番びっくりしてるんですから」と、とても明るい岡田さん。

以前は趣味で写真を撮っていたのが、昨年の市展を機にコンテストにも積極的に出品するようになつたとか。

「ヒキビキ」写真家の方の講演があつたりなんかすると聴きに行っています。すごく勉強になりますね。一つの対象物を撮るにしても、アングルによって

風景などの自然を撮つたものがほとんど。  
「自然是季節の移ろいを感じさせてくれるし、心がなごみます。人から『いい景色があるよ』という情報をもらうと、すぐにとんでもります。動物も行動やしぐさが自然本で、かわいいでしょう。でも動きのあるものを撮るのは本当に難しいですね。自分流にいろいろ研究しながら、これからはもつともついろんな技術を使って写真を撮つ



話してくれました。

漫画の部

「さか よしつ」  
葛目義人さん・岡豊町



「漫画を描き始めたのは十五歳の頃、退屈紛れに新聞に投稿していました。その頃属していましたグループには、らたいらさんがいましたが、私は理髪の修業のため一時ブランク中でした」今は、理髪店をやんでいる葛

「目さん」意外と近所では漫画を書いていることが知られていないらしく、「はらさんの絵は全計な描写がなく好きで十。好きなテーマは人間のほのぼのとした情感を表現することで、サザエさんのような作品を書きたいと思っています」。

「時事的なものは得意ではなく時の流れには関係のない、人間の本質的なところに興味があります。風刺は必要だと考えていますが、どうも苦手で、政治的な題材は極力避けています」と控えめ。スタイルもストーリー性のあ

るものには手を出さず、ひとコマ漫画にこだわり続けているようだ。「高知県は漫画王国」。県でもマンガ甲子園の開催などに力をいれていますが、「ストーリー漫画が主流で」とちょっぴり寂しそう。

アイデアはベンを走らせているときフフと湧いて来ることが多いようだ。あれこれ考えて描くといいものは生まれないとも、「仕事がら、接する世界が限られており、お客様との会話を通じて社会を見ているようなもので、新聞は良く読むように心掛けています」

